

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

平塚市教育委員会

## 1 はじめに

令和6年4月に実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査」の本市立学校の調査結果の概要をお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、児童生徒に関わる様々な立場の方々に関心を持っていただき、調査結果から見える成果や課題を共有しながら、学校・家庭・地域と連携し、一体となって平塚市の子どもたちを育てていきたいと考えております。

なお、本調査は、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部を測定したものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果を本市の児童生徒の学力や学習状況を把握する資料の一つであると捉え、児童生徒一人一人に応じた教育指導や学習状況の改善のために役立てていきたいと考えております。

市民の皆さまにおかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨を御理解いただくとともに、本市の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効に御活用いただきますようお願いいたします。

## 2 調査の概要

### ○調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### ○調査実施日

令和6年4月18日（木）

### ○調査対象

小学校第6学年      中学校第3学年      原則として全児童生徒

### ○調査内容

#### （1）教科に関する調査（小学校 国語、算数、中学校 国語、数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、次のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### （2）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

##### <児童生徒に対する調査>

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

##### <学校に対する調査>

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 3 教科に関する調査について

#### ◎教科別調査結果

##### <小学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	9.1 問 / 14 問	65%	10.0 問	3.1
算数	9.7 問 / 16 問	61%	10.0 問	4.0

##### <中学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	8.6 問 / 15 問	57%	9.0 問	3.4
数学	8.3 問 / 16 問	52%	8.0 問	4.3

##### <用語説明>

平均正答数：児童生徒の正答数の平均。（/の右側は総問題数）

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。

平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。

標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値が全て同じ)ことを意味する。

#### ◎各教科の結果の概要

〔 グラフ(レーダーチャート)は各教科の内容又は領域・観点・問題形式別に表したもの  
◇…多くの児童生徒ができている内容 ◆…課題が見られる内容 〕

#### 【小学校国語】

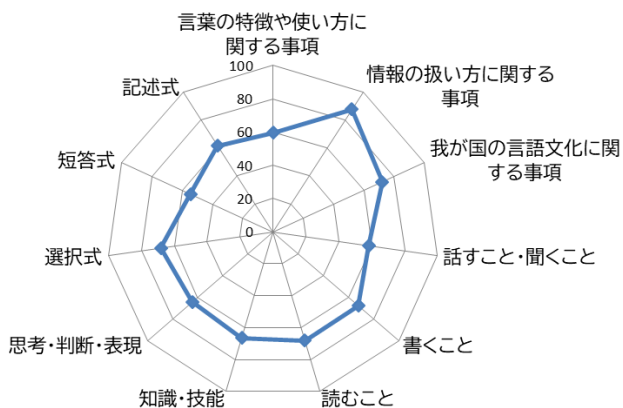
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」については、全国の正答率と同程度であり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、全国の正答率をやや下回っている。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っており、「短答式」については、全国の正答率を下回っている。特に「短答式」については、正答率が7割未満、且つ全国を5ポイント以上下回っており、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。

◆文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。

◆人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

### 【小学校算数】

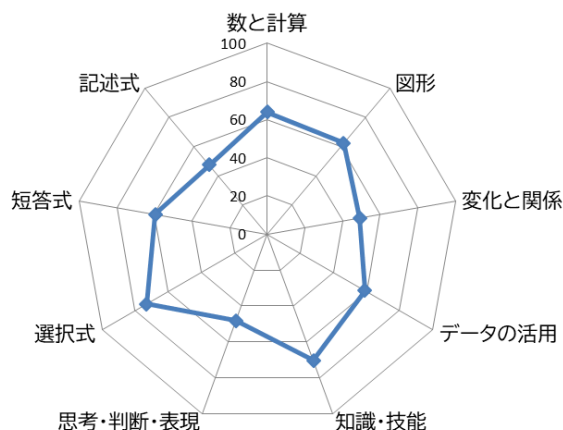
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

領域別に見ると、全ての領域について、全国の正答率をやや下回っている。特に「変化と関係」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。特に「思考・判断・表現」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、全ての問題形式について、全国の正答率をやや下回っている。特に「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。

◇直方体の見取図について理解し、かくことができる。

◆球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。

◆道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。

### 【中学校国語】

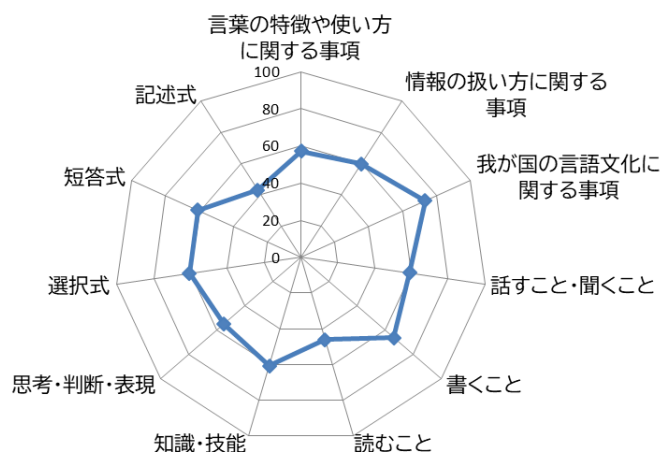
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」については全国の正答率と同程度であり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「読むこと」については、全国の正答率をやや下回っている。

観点別に見ると、「知識・技能」については全国の正答率をやや下回っており、「思考・判断・表現」については、全国の正答率と同程度である。

問題形式別に見ると、「選択式」、「短答式」については、全国の正答率と同程度であり、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

◆意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。

◆話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる。

## 【中学校数学】

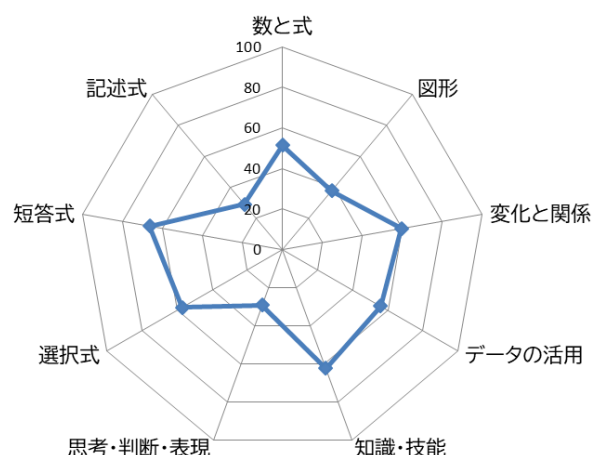
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国と同程度である。

領域別に見ると、「数と式」、「データの活用」については、全国の正答率と同程度であり、「図形」、「関数」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「図形」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率と同程度である。特に「思考・判断・表現」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、「短答式」、「記述式」については、全国の正答率と同程度であり、「選択式」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



◇問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。

◇二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる。

◆統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができる。

◆筋道を立てて考え、証明することができる。

## 4 児童生徒質問紙調査について

<生活習慣や学習環境等に関する調査結果>（抜粋）

質 問 内 容	小学校		中学校	
	平塚市立	全国公立	平塚市立	全国公立
朝食を毎日食べている。	92.3%	93.7%	89.1%	91.2%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	81.0%	82.9%	75.3%	80.7%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.4%	91.6%	89.9%	92.5%
自分には、よいところがあると思う。	80.0%	84.1%	80.2%	83.3%
将来の夢や目標を持っている。	81.7%	82.4%	64.4%	66.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	95.8%	96.7%	94.7%	95.7%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	96.0%	95.9%	94.6%	95.2%
学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間が、2時間以上。	24.2%	23.5%	44.4%	31.7%
学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)、1日当たりの勉強時間が、30分未満。	25.9%	18.3%	18.6%	17.0%
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	83.9%	86.3%	83.6%	86.1%

※数値には、「どちらかといえば」「時々」を含む。

<教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関係>

※児童生徒質問紙の質問の回答状況と各教科の調査結果を比べ、相関関係（2つの項目の間の何らかの関係性）が見られたものを抜粋。（必ずしも因果関係を示したものではない。）

◎次のように回答した児童生徒に、正答率が高い傾向が見られる。

「基本的生活習慣等」

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等」

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい。

「学習習慣、学習環境等」

- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日、1日当たりの勉強時間が長い（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」

- ・5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
- ・5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ・5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。

「学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）」

- ・算数〔数学〕の勉強は好き。
- ・算数〔数学〕の授業の内容はよく分かる。
- ・算数〔数学〕の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている。
- ・算数〔数学〕の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている。

「各教科に関する調査の解答状況」

- ・今回の国語の問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- ・今回の算数〔数学〕の問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。

※「 」は、「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書（質問紙調査）」（令和6年8月文部科学省 国立教育政策研究所）による分類

※〔 〕は、中学校の設問

## 5 今後に向けて

市教育委員会では、本市の児童生徒が確かな学力を身に付けていくため、本調査結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に提供しました。各学校では、本市全体の結果分析を踏まえ、各学校の調査結果の多面的な分析と検証を行い、自校のよさや課題を踏まえた取組を学校全体で組織的・継続的に進めていくことが重要であると考えます。市教育委員会として、各学校が、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図ることができるよう、各学校の状況に応じ、必要な指導や支援を行ってまいります。

本調査は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという学習指導要領の趣旨を踏まえて、知識と活用を一体的に問うものになっています。

本市全体の調査結果を見ると、小学校国語・算数及び中学校国語の平均正答率は全国をやや下回っており、中学校数学は、全国と同程度となりました。

本調査からは、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことや、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動ができる児童生徒ほど、学力の定着との関わりが見られる傾向にあることが分かりました。

また、各教科に共通した課題として、条件に合わせて、必要な情報を取り上げ、自分の考えなどを書くことに課題が見られます。

授業では、話を聞いたり発表したりすることに加え、複数の条件に合わせて言葉や文章を書く活動を図ること、児童生徒が自らの学習を振り返り、学んだことの意義を実感できるように工夫していくことが、学習内容の定着や学習意欲の向上につながると考えます。

また、お互いを認め合える人間関係が築けるよう、児童生徒が安心して学べるような教育活動を各学校で進めていくことも大切だと考えます。

市教育委員会としては、これまでも学習指導要領の基本的な考え方とともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、評価の仕方などを含めた研修会を行ってきましたが、今後も各学校の教育活動が円滑に実施されるよう、管理職の研究会や各種担当者会において、必要な研修を行ってまいります。

児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。今後とも、市民の皆さまの学校教育・家庭教育への御理解と御支援・御協力をよろしくお願いいたします。